

活動報告

県政報告会 9/8(金) MRTmiccダイヤモンドホール



コロナ前は毎年開催していた県政報告会を4年ぶりに開催。女性の参加も多く、約150人の方々にご参加いただきました。参加された方同志の新しい繋がりができることが嬉しいです。毎年秋に開催予定です。

農家さん取材 10/2(月)

ピーマンハウスの1部を今年初めてナスに切り替えたら、出来が良くて収量もスゴイことに。毎日の収穫がキツくなっていたところで、そろそろ次のピーマン栽培のために終了を決断。病気もなく、まだまだ採れているのに止めなければならない苦渋の決断です。燃料や肥料が高騰している中、自然と対峙しながら続けていかなければならぬ農家の皆様には感謝しかありません。



巨田神楽(こたかぐら) 11/12(日)

神楽を舞うために都会から帰って来られた神楽保存会の山内会長の指導の下、小学生の女子から高校生、若者が巨田神楽の後継者として育っています。人口減少の中、神楽を通してふるさと帰郷が生まれ、若者によって地域の伝統文化が今後も継承されていくことを願っています。



ふれあいイン小松台 11/5(日)

小松台小学校が年に一度開催する「ふれあいイン小松台」は、学校行事として30年ほど前から開催していましたが、地域の方との繋がりに苦勞されている先生方を見て、私が学校と地域を繋ぐ役目として15年前にまちづくり部会を立ち上げ、地域の技人達に「子どもたちの育成に協力してほしい」と声をかけたのが始まりです。毎年、将棋や絵画、卓球、アートバルーン、パン作りなど、約30の講座を設定し、全児童が希望の講座を受けられるようにしました。子どもたちは毎年楽しみにしていて、新任の先生方も苦勞せず、講師も子ども達からの感謝の声に喜びを感じ、三方よし(子ども、学校、地域)のwin-winであることが長続きの秘訣ですね。



県外視察報告

●福岡県の日田彦山線

平成29年の九州北部豪雨で被災した福岡県の添田～大分県の日田を結ぶ日田彦山線が、BRT(バス高速輸送システム)となって運行がスタート。線路だったところを専用道路に整備し、駅舎だったところがキレイなバスの待合所になり、病院の入口にバス停ができ、朝夕は高校の通学用として利用され、電車より柔軟な対応ができるようになったことで住民にも大変好評だそうです。やはり交通は利便性が一番求められますね。



●新潟市の農業政策

米どころ新潟県も、コメ需要の減退と価格低迷で非常に厳しい環境に置かれています。新潟市は海拔ゼロメートルという田園地帯なので園芸への転換には課題がありますが、今後は園芸にも力を入れていきたいと、園芸施設(植物工場など)を建てるときは建築確認を不要としたことや、親元等就農支援として、親元就農者や第三者継承に対して1年間100万円の補助を始められたことなど、国から来られた新潟市農林水産部長が、市長の意向に沿った農業政策をスピード感をもって事業化されていました。



Profile

- ◆佐土原町生まれ。新富町立富田小・中学校卒
- ◆高鍋高等学校卒業(新体操でインターハイ出場)
- ◆武蔵野大学 人間関係学部卒業
- ◆フリーアナウンサー歴 約30年
- ◆宮崎市議会議員2期
- ◆宮崎県議会議員1期目
- ◆2021年9月 衆議院議員選挙出馬のため県議辞職
- ◆2023年4月 宮崎県議会議員2期目当選

資格取得

- ◆宮崎県防災士
- ◆宮崎県レクリエーション・インストラクター
- ◆災害時救援ボランティアコーディネーター
- ◆認定心理士

趣味

- ◆コーラス(くすの木:渡邊先生)
- ◆フラ(ヒロフラスタジオ)

ご意見、ご感想をお寄せください

脇谷のりこ連絡先

・宮崎事務所 佐土原事務所
〒880-0956 〒880-0211
宮崎市小松台南町11-8 宮崎市佐土原町下田島14328

☎090-8416-4546 FAX:0985-47-9645 ✉nory22@lib.bbq.jp



公式LINE

宮崎県議会議員:無所属会派「親和会」

わき たに 脇谷のりこ 通信 Vol.7 2024年冬号



ごあいさつ

新年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年4月の県議会議員選挙で2期目に当選させていただき、あつという間の10か月でした。その前に衆議院選挙に出馬して落選してしまいましたので、どん底からの再出発となったのですが、人は他人にはわからない悩みや痛みをみんな抱えておられることが改めて分かりました。少しでも皆さんの力になることが私の使命だと改めて思っています。人生は山あり谷あり。今落ち込んでいる人も大丈夫。勉強などいろんなチャレンジをすることで気持ちも前向きになり、必ず良い方向に行きますから。なんでもご相談ください。

私の今年の目標は、農業応援のためのYou tube動画「WAKIちゃんねる」を継続することと、若者の地域リーダーを養成するための「わきたに未来塾」を再開することです。今年も多くの方々とお会いして様々な課題を県政に届けるよう努力してまいります。政治家が信じられないと思われぬよう、地道に、地域のため、宮崎のため、日本のために頑張ってまいります。皆様からの情報、ご意見をお待ちしています。今年もどうぞよろしくお願いたします。



一般質問から

(令和5年11月定例会にて)

一般質問とは…県民や地域の要望を県に要求したり、県の方針や県知事の考えを問いただすことです。各議員の考えや主張がこの一般質問でわかります。宮崎県議会では、議員は年4回の定例会で一般質問することができます。

宮崎港におけるクルーズ船の誘致について

質問 宮崎港は水深が浅く、岸壁も短いことからクルーズ船の規模が限られている。細島港や油津港のようにクルーズ船の誘致はできないのか。

答弁 宮崎港には今年、小型のクルーズ船「にっぽん丸」が1回寄航した。近年、全国では、大型船だけでなく、比較的小型で富裕層向けのラグジュアリー船と呼ばれるクルーズ船の寄港も増加している。宮崎港に寄港できるラグジュアリー船を運航するクルーズ会社との意見交換を昨年10月に行うなど、新規のターゲットにも拡大した誘致活動も行っているところである。



質問 明るい話題で喜ばしい。今後のクルーズ船誘致に向けたスケジュールは？

答弁 令和6年に予定されているクルーズ船の寄港は2回。令和7年の寄港回数増加を目標に、観光部局や宮崎市などと連携してクルーズ会社や旅行代理店に対し宮崎港への誘致活動を行っている。

朗報! 令和7年に宮崎駅から宮崎港へと一直線に通る「宮崎駅東通り線」が開通予定。

そうすると、宮崎港からの交通の利便性も向上し、ラグジュアリー船の誘致にもプラスの材料となる。インバウンドも増加が期待される。



交通対策について

質問 ローカル鉄道の再構築に関する法律が昨年10月に施行されたが、県としてどうしていくか？

答弁 JR九州に対して、路線の存続や再構築を一方的に検討することなく地域の意向を尊重するよう要望した。再構築協議会の設置については、JR九州が国に要請しない限り県が設置することはない。JR日南線「油津～志布志間」は上下分離方式やBRTなど他県の事例も研究しながら沿線自治体と必要な対応を実施する。



質問 青島地区のタクシー不足について

答弁 県としても運転士の減少により、急な予約時や夜間など、タクシーがつかまりにくく、特に、県外からの観光客も多い青島地区では不便な状況だと認識している。国ではライドシェアの導入にむけた検討を進めているが、まずは、運転士を増やす取組みが重要であるため、二種免許の取得支援を開始したところタクシー業界からも好評である。また、タクシーの配車を行うアプリの導入費用として国の補助制度を活用したい。



物流の2024年問題について

2024年問題とは：働き方改革関連法で2024年4月からドライバーの年間最大時間外労働が罰則付きで960時間になることにより、輸送能力が不足し、荷物が運べなくなるという問題に直面する。



質問 物流の2024年問題について県の認識と理解促進に向けた取組み

答弁 運送事業者のみならず、荷主企業や消費者を含め物流に関わる全ての関係者が解決に向けて行動を起こすことが必要。そのため、運送事業者等との意見交換会を継続的に行い、テレビCMで更なる啓発を図る

新規就農者への支援について

質問 新規就農者の現状は？

答弁 令和4年は389人で、内訳は自営で始める人が166人、農業法人などに雇用される人が223人。自営就農者のうち新規参加者が78人で過去最多となっており増加傾向にある。

質問 県内外で開催している就農相談会などが重要だが、宮崎県で就農してもらうための取組は？

答弁 県農業振興公社のほか、市町村、JAなどに新規就農相談センターを設置し、まずは相談対応。その次のステップとして、JA等のトレーニング施設で技術習得に向けた研修を実施し、市町村や農業委員会等と連携して就農に向けた計画づくりや農地・施設の確保の支援をしている。

質問 就農後の支援は？

答弁 県では、年間150万円の資金を最大3年間交付する事業を実施。また市町村や普及センター等で編成した支援チームにより、個別訪問・面談を実施し、新規就農者の課題に応じたきめ細やかなサポートを実施。さらに、SAPなど若手農業者との交流によるネットワークづくりなどを通して、地域に溶け込むための支援を行っている。



母子生活支援施設について

質問 宮崎、都城、小林、延岡の4市に設置されていた母子生活支援施設(母子の生活の保護と自立を支援する施設)がすべて廃止されていたが、この4月に新しく設置されることになった。その詳細は？

答弁 社会福祉法人 石井記念友愛社が都城市内に建設中で、定員は10世帯。利用者はDVや経済的困難を抱える母子であり、母子支援員が生活支援を行い、就労や養育に関する相談、助言、関係機関との連絡調整などの支援を行う。